

日本藻類学会第 49 回大会エクスカーショ 「亜熱帯の藻場観察会」に参加して

古里 匡志朗

2025 年 3 月 24 日、本エクスカーションが沖縄県名護市の美ら島自然学校および嘉陽ビーチにて開催されました。私は普段、北海道の冷たく濁った海で潜水調査に取り組んでいるため、温暖で透明度の高い海で南方系の海藻に触れる機会を得たいと考え、参加しました。

今回はシュノーケリングによる海藻の観察であったため、安全面を確保するために、やんばるの海に詳しい 4 名の講師・サポーターの方々が同伴してくださいました。まず、講師の方々の紹介と参加者の簡単な自己紹介が行われ、その後、注意点の説明を受けた後に、各自準備を整えて海へ向かいました。事前の情報では「海草藻場にパッチ状にガラモ場が点在している」とのことでしたが、環境の変化により海草はほとんど衰退し、海草を餌とし、かつては沖縄県近海に広く分布したジュゴンもめっきり見られなくなったそうです。私は藻

場生態系に関する研究に取り組む者として、海藻ではないものの、海草藻場でも磯焼けが発生している現状を実感し、その深刻さを改めて痛感しました。

観察自体は天候にも恵まれ、リーフ内の穏やかな海域で実施したため、体力の続く限りじっくりと海藻を観察することができました。まず、砂泥域にかサノリがパッチ状に分布するエリアを超えると、点在する根やリーフの塊とともに、コバモクやヤバネモクなどのホンダワラ類が観察できました。その隙間を埋めるように、多様な緑藻類が繁茂しており、鮮やかな光景が広がっていました。私と北海道立総合研究機構の新井嵩博さんが「リーフエッジまで観察したい」と希望したところ、いであ株式会社の日向智大さんと鹿児島大学の膳場智幸さんがナビゲートしてくださり、より広い海域を観察することができました。ご配慮いただき、誠にありがとうございました。帰り際、流れ藻として漂着していたアカモクを発見し、それを見た膳場さんが興奮されていたのがとても印象的でした。北海道では厄介なほど繁茂しているアカモクですが、場所が変われば珍しい存在になるのだと実感し、記念撮影をしながら喜ばれている様子がとても印象深かったです。

片付けや着替えを済ませた後は自然学校宿舍へ移り、採集したサンプルの観察および種同定を行いました。顕微鏡を覗きながら観察したり、海藻の写真を撮ったりしながら活発な議論が交わされ、最終的に緑藻 22 種、褐藻 17 種、紅藻 11 種に加え、藍藻 1 種、海草 3 種の合計 54 種が確認されました。藍藻の同定は初めての経験であり、また紅藻が少なく、緑藻が多様に観察できたことで、温暖な海の特徴を改めて実感しました。さらに、沖縄環境分析センターの岩永洋志登さんが独自に作成されている沖縄の海藻図鑑が非常に参考になり、講師の方々や新井さんの豊富な知識にも圧倒されました。それと同時に、自身の見識や知識不足を痛感し、より研究に打ち込んでいこうという強い動機付けにもなりました。



かサノリとイソスギナの海中写真

出現した海藻・海草種

緑藻 (22 種)	ヤセガタモツレミル、ヘライワヅタ、ビャクシンヅタ、ヒナイワヅタ、センナリヅタ、クビレヅタ、コテンゲノハウチワ、ウチワサボテンガサ、マユハキモ、ハゴロモ、ヒメイチョウ、ウキオリソウ、カビシオグサ、キッコウグサ、パロニア、ホソパロニア、ナガミズタマ、ミズタマ、ウスガサネ、フデノホ、かサノリ、イソスギナ
褐藻 (17 種)	ハリアミジグサ、イトアミジ、ウラボシヤハズ、 <i>Lobophora</i> sp., <i>Padina</i> sp., オキナワモズク、モズク、 <i>Ectocarpus</i> sp., フクロノリ、カゴメノリ、リュウキュウカヤモノリ、ヤバネモク、アカモク (漂着)、コバモク、カラクサモク、タマキレバモク、カサモク
紅藻 (11 種)	ホソエダカニノテ、ガラガラ、 <i>Liagora</i> sp., カギケノリ、 <i>Champia</i> sp., <i>Dasya</i> sp., カエリナミ、マクリ、リュウキュウソゾ、カタソゾ、カイメンソウ
藍藻 (1 種)	アイミドリ
海草 (3 種)	ウミジグサ、ウミヒルモ、オオウミヒルモ



参加者の集合写真（写真提供：田中厚子先生）



種同定の様子（新井さん、岩永さんの説明に耳を傾ける参加者）

このようなエクスカーションは、様々な方と交流し、自身の研究について考える貴重な機会を得ることができるため、大変有意義であると感じています。今後もこういった機会があれば積極的に参加し、多くを吸収することで、日頃の研究活動に一層励んでいきたいと思っています。

最後に、本エクスカーションの企画・準備・運営にご尽力いただいた琉球大学の田中厚子先生および学生の皆様、講師・サポーターの皆様、美ら島自然学校の皆様に、この場を借りて深くお礼申し上げます。

（北海道大学大学院）